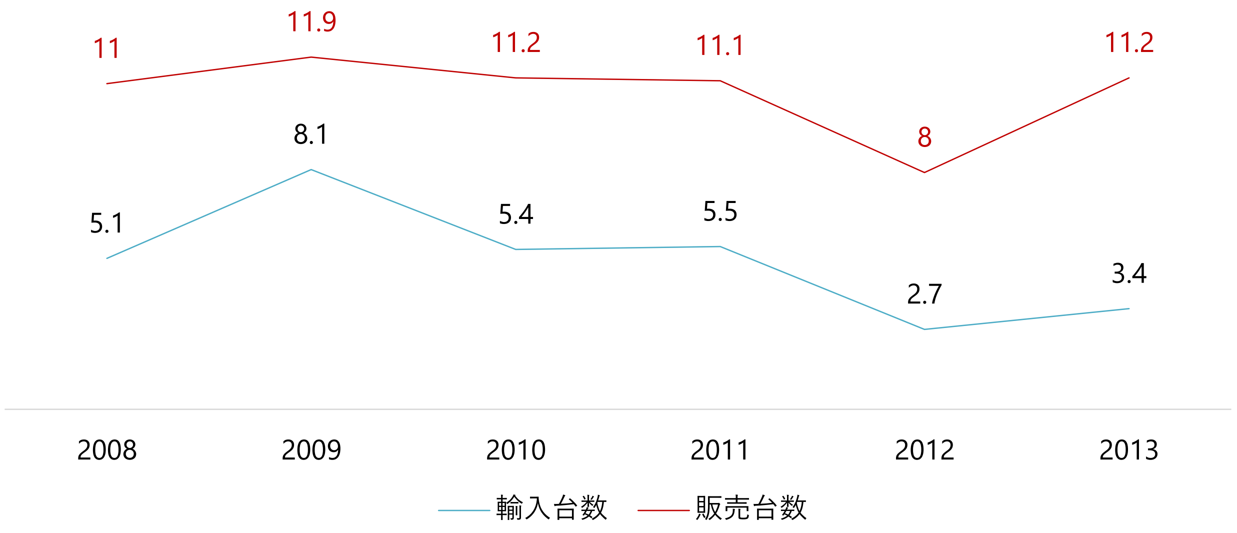
自動車販売は回復に向かえるか

2012 年は自動車業界にとって厳しい年だった。ベトナム政府が渋滞防止などとして様々な税金を大幅に引き上げたからだ。2012 年に車を購入すると、車両価格の 60%の特別消費税、10%の VAT、10～20%の自動車取得税（前年まで最大 15%）、ナンバープレート交付料 200～2,000 万ドン（同 10～200 万ドン）、道路保全費年 200～1,600 万ドン（同 20～200 万ドン）など、輸入車では元の車両価格の約 3 倍もの金額を支払うこともあった。自動車販売数は約 8 万台と前年比 27%も減少した。同年には輸入関税も引き上げられ、輸入は 2011 年の 5.5 万台から 2.7 万台に半減した。

自動車市場規模（万台）



資料：ベトナム自動車協会（VAMA）

市場の成長は限られたが、競争上は変化があった。Truong Hai とトヨタ 2 社の市場シェアは 5 年前の 40%程度から 60%以上まで増加。ベトナムの他 2 社、Xuan Kien と Vinamotor のシェアは 2008 年の合計 25%以上から 10%以下に縮小。Truong Hai がベトナム系で 1 強となり、2011 年にはトヨタを抜きシェア 1 位となった。同社は OEM を中心にし、主力車種には KIA の乗用車や FOTON のトラックなどがある。2012 年には中部の主力工場近くに Chu Lai - Truong Hai 港を開港、同地では Huyndai との提携工場の起工式も行われた。韓国からの技術移転を活用した自動車エンジン工場である。また子会社の VinaMazda は 2013 年 7 月にラオスへ Mazda 2、Mazda 3、Mazda CX-5 の輸出を開始した。2014 年に 3,000 台を目指しており、継続的な自動車輸出として初めての試みである。海外各社と提携し、ブランド力、技術を活用することでベトナム自動車業界の中で最も好調な企業となっている。

一方、日系 70%のベトナム・トヨタは全国に 33 の支店、代理店があり、3.65 万台の生産能力を有している。2012 年には販売シェアトップに返り咲き、車種別販売台数で 1～4、6、8 位と上位を独占した。

© 2013-2014 B&Company Vietnam Co., Ltd.

東南アジアで爆発的に売れている新興国モデルの IMV シリーズがベトナムでも広く受け入れられたことが大きい。他方、2011 年 1 位であった KIA Morning は 5 位に後退。しかし、シェア争いよりも市場成長がトップメーカーとしての懸案事とすれば、同社も期待した成果を上げているとはいえないであろう。方針の定まらない自動車規制に関して、日系関係者が激怒しているというのをよく聞く。

2013 年上半期の自動車販売数は 4.3 万台で前年比 20.8%増加した。理由は年初の自動車取得税引き下げにある。ハノイ市では 20%から 15%に、さらに 7 月からは 10～12%となった。業界では 2013 年は 2011 年の 11 万台に戻ることを期待している。2014 年には輸入関税の 60%から 50%への引き下げが決まっており、さらに AFTA 等の国際的枠組みの中でゼロに近づいていく見込みだ。ベトナムでも自動車販売の急拡大が予想されるが、国内メーカーへの打撃は避けられない。単独での生き残りを図れるのか、残された時間はわずかである。

© 2013-2014 B&Company Vietnam Co., Ltd.